



板四小と板五中 心ゆたかな学びのエリア 令和7年度

学校の窓 7月号

板橋区立板橋第四小学校

HP <http://www.ita.ed.jp/edu/ita4es/>

e-mail ita4es@ita.ed.jp

世界平和度指数

校長 堀内 祐子

5年生の倉渕移動教室につづき、5月28日から3日間、6年生と日光移動教室に行ってきました。6年生は昨年の榛名移動教室での経験を生かし、みんなで協力しながら時刻を守り楽しい3日間を過ごすことができました。一日目の大谷石資料館や足尾銅山では気温の低さに少しびっくりしながらも石や銅の採掘に力を尽くしてきた先人の苦労に思いを馳せました。二日目は戦場ヶ原ハイキングでたくさん歩いたあとに、牧場のおいしいアイスクリームに舌鼓を打ちました。三日目は小雨まじりの



お天気でしたが世界遺産で有名な日光東照宮を見学しました。ガイドさんの説明に真剣に聞き入り、鳴き龍では不思議な現象に感動していました。鳴き龍を見学したあとは、奥社（家康の墓）まで200段の階段を上りきりました。この奥社に通じる参道入り口の門の上部には、とても有名な「眠り猫」という彫刻があります。この「眠り猫」の猫が寝ている姿は、戦国時代が終わり、平和な世が訪れたことを表していると解釈され、「平和な時代、平和な世界の象徴」と言われています。また、猫の裏側には雀の彫刻があり、猫が起きていれば雀を捕食してしまうが、眠っていれば共存できるという平和への願いが込められているとも考えられています。

ところで、「世界平和度指数」というのをご存知でしょうか。これは、オーストラリアのシドニーに本部を置く、国際的シンクタンク「経済平和研究所（IEP）」が発表している世界の平和度を示す番付です。2007年から毎年発表されており、世界163の国と地域（世界の人口の99.7%をカバー）を平和のレベルに応じてランク付けしています。各国の状況を「社会の安全とセキュリティのレベル」「進行中の国内および国際紛争の程度」「軍事化の程度」の三つの分野に分類し、その分野に含まれる23項目の指標（政治的安定、近隣国との関係、外戦・内戦の数、テロ活動の潜在的可能性など）を用いて評価します。スコアが低いほど平和な国とされ、（1に近いほど「平和な状態」を意味するそうです。）国内紛争や治安悪化、軍事力強化など平和維持への不安要素が大きいほどスコアは高くなります。

2024年度「世界平和度指数」ランキングによると、世界で最も平和な国はアイスランド（スコアは、1.112）で、過去15年以上にわたって、世界トップを維持しています。2位以下はアイルランド、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、スイスなどの順で、日本は前年度の9位から順位を落とし17位（スコアは1.525）でした。下落の具体的な理由としては、軍事支出の増加や東アジア全体の軍事的緊張（台湾海峡や朝鮮半島情勢など）に伴う国際紛争リスクの増加などが挙げられるそうです。

2022年からロシアの軍事侵攻を受けているウクライナは163か国中159位、一方のロシアは157位です。2023年から紛争の始まったイスラエルとパレスチナは、イスラエルは155位で、パレスチナは145位、それぞれ前年度から11位、9位下落しています。

未だに先の見えないウクライナとロシアの戦争、パレスチナのガザ地区で続く戦闘、先日停戦にはなりましたが予断を許さないイランとイスラエルの紛争等の報道をみると、世界平和への不安がよぎります。また、戦争や紛争地域の子どもたちの生活は今どうなっているのだろうと思うと心が痛みます。もうすぐ夏休みが始まりますが、板四小の子どもたちの安全・安心と共に、一刻も早く、ウクライナやロシア、ガザ地区、イスラエルやイランの子どもたちに、そして世界に、眠り猫の平和な世界、共存できる世界が訪れることを願ってやみません。